

アジアにおける居住分野のNGOの活動

パキスタン・インド・スリランカ担当 発表者：竹内 航

パキスタン

パキスタンにおけるスラムの概要

- ・カッチ・アバディ（スクウォッター居住区） カラチ人口の半分以上
- ・強制立ち退き 1992年以降、1万7728戸の住宅や店が撤去。さらに5万ほどの住居が撤去の危機
- ・カラチのカッチ・アバディのインフラの状況
 - 水にアクセスできる世帯の割合は50.3%、下水施設に繋がっているトイレへアクセスができる世帯の割合は12%、電気を獲得している世帯の割合は75.8%
- ・カッチ・アバディにおける住居建設のために費用は、友人や親戚からの借金、貴重品の販売によるお金、非公式の貯蓄組合における積立金、建築業者からの借金などの組み合わせによる

Orangi Pilot Project (OPP)

- ・カラチ市周縁部の低所得者居住区であるオランギ地域において1980年の4月から活動
- ・建築・プランニングコンサルタントのアリフ・ハッサン氏が1990年に国際居住年賞（松下賞）を受賞
- ・1988年以降、OPP Society（組織内に資金を配分）、OPP-Research and Training Institute（下水、住宅などのプログラムの運営）、Orangi Charitable Trust（信用プログラムの運営）、Karachi Health and Social Development（保健プログラムの運営）の四つの独立した組織に拡大

OPPの主な活動

低価格衛生設備プログラム (Low-cost Sanitation Program)

- ・低所得世帯が下水を自己負担によって自ら建設し、管理

オランギにおける最大の問題として衛生設備（下水）に焦点をあてる



オランギにおける4つの障害

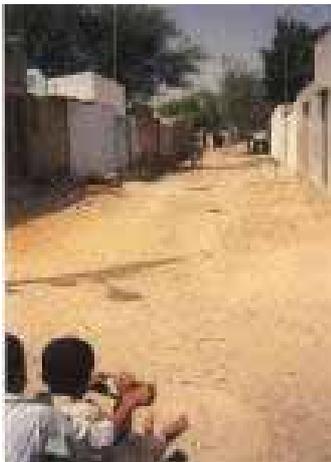
- 1) 経済的側面：通常のトイレや下水システムは住民が購入できるものではなかった
- 2) 心理的側面：下水管を整備するのは政府機関の責任であるという住民の意識
- 3) 技術的側面：住民にも、地元の建設業者にも下水管を建設する技術を有していなかった
- 4) 社会的側面：排水管整備の際の共同作業に必要なコミュニティ組織が存在していなかった

- 1) OPPはまず設計を単純化することで建設業者の価格の四分の一に抑えた
- 2) インフラは政府が与えてくれるものだという考え方を改めさせ、また住民は僅かの投資で健康上の問題と所有地への被害を解決することができると実感させることによって、住民の心理的な障害を取り除いた

- 3) 4) それぞれの路地において路地管理者を配置し、集金や仕事の監督などを任せる必要があったのを、OPP のスタッフはプロジェクト当初から介入することを避け、住民自身の責任のもと、住民自身の手によって行わせて、技術的・社会的側面の問題を解決



1996年5月までに、オレンジ地域の85%にあたる約8万5000戸の世帯が管渠敷設に参加



価格住宅プログラム

- ・住宅建設におけるさまざまなインフォーマルセクターの組織の技術向上
Ex. 土地を獲得し、その開発や分譲に関わるダラル（dalal）、融資や建築素材を提供するタラ（thalla）と呼ばれる建築業者、そして建築家、技術者、土建業者の役割を果たす石工など

個人事業経済計画 (Family Enterprise Economic Programme)

- ・1000 から 7 万 5000 ルピー¹の融資を無担保で個人事業に提供
- ・利率は 18% で、現在、6555 件に 1 億 2373 万 8610 ルピーが融資され、回収率は 97%

クレジット・プログラムを実施しようとする CBO・NGO に対する強化支援

- ・同様のクレジット・プログラムを実施したい CBO、NGO は 3 日のオリエンテーション・トレーニングを受けた後、さらに一週間の実践訓練を行い、融資が開始。これによって 16 の NGO が支援され、そのうち 4 つが独立。

都市リソースセンター (Urban Resource Center ; URC)

- ・URC は、アリフ・ハサン氏を含む都市計画に携わる専門家、NGO の代表、草の根のコミュニティ組織の代表などによって 1989 年に設立。
- ・都市開発プロジェクトに関する調査をコミュニティの視点で行い、また様々な関係者（コミュニティ、インフォーマル・サービス提供者、政府機関、政党）とのフォーラムを通じてその調査結果を広めている。

インド

インドにおける都市・スラムの概要

- ・都市人口・スラム人口の絶対数の高さ
都市人口の割合は 27.9%（2001 年）と比較的低いが、インドの都市人口は約 2 億 8560 万 8 千人で中国に次いで世界第 2 位。またスラム居住者も 1 億 5841 万 8000 人と中国に次いで世界第 2 位。
- ・今後の都市人口増加の予測
2000 年において人口 1000 万人を超える都市としてデリー（1,244 万人）、カルカッタ（1,306 万人）、ムンバイ（1,609 万人）があり、これが 2015 年における予測ではムンバイが 2,258 万人、デリーが 2,088 万人で、順に世界の都市人口の第 3 位と第 5 位を占めると予測されている。

スパーク SPARC (Society for Promotion of Area Resource Centres)

- ・1992 年に国際居住年賞（安田火災賞）を受賞
- ・全国スラム居住者連合（National Slum Dwellers Federation ; NSDF）と女性の集い（Mahila Milan ; MM）とスラム開発同盟を結成

¹ 1 米ドル = 58.7 ルピー（2002 年 7 月 - 03 年 3 月平均）

- ・ 貧しい人々による組織を形成し、強化して、彼らと共にアドボカシー活動を行い、政府に働きかけている

SPARC の活動

実態調査

- ・ スラム住民自身による居住区のリストアップ、世帯数の把握、世帯内に関する調査。700ヘクタールの政府所有の空き地が存在することを発見。
- ・ 調査レポートを政府に提示したことに続いて、SPARC/NSDF/MMによる同盟は、モデル住宅を展示するための土地を州政府に提供させた。MMの女性たちは再定住する際の住宅を自ら設計し、また再定住予定地を訪問し、その地理的条件が自分たちに適切かどうかを検討。

トイレ設置

- ・ トイレを設計し、管理するようコミュニティを促進し、それをパイロットプロジェクトとすることで、貧しいコミュニティを参加させれば幅広く普及させることができることを政府や地方自治体に提示。
- ・ ムンバイにおいては、世界銀行の20億ルピー（約40億円）²のプロジェクトの内の4億ルピー（約8億円）をSPARCが受け持ち、320のトイレブロック（toilet blocks）³を建設。

貯蓄活動

- ・ 日々の生活に必要なローン目的の貯蓄
- ・ 将来建設する集合住宅用の積立金

- ・ 集金は10から15世帯ごとに選ばれた一人の女性リーダーによって行われ、その人が集金、預金、ローン手続、返済の責任者を受け持つ
- ・ SPARCの役割は、スラム住民による貯蓄管理が上手くいっている時点で、外部からの融資を得てそのコミュニティ内のグループに分配

現在進行中の活動

- ・ ムンバイ都市交通プロジェクト（Mumbai Urban Transport Project ; MUTP）

スリランカ

スリランカにおける都市・住宅の概要

- ・ 比較的緩やかな都市化。都市人口率23.1%（2001年）はパキスタン、インド、スリランカの中では最も低い値⁴。
- ・ 「貧困の都市化」があまり見られない。

² 2002年8月において、1US\$ = 49ルピー。

³ 各トイレブロックには10から20のトイレシートがある。

⁴ 都市人口率は、2001年において、パキスタンで33.4%、インドで27.9%である（UN-HABITAT2003）。ちなみに、今回の報告書で扱うその他の国の都市人口率は、タイで20.0%、フィリピンで59.4%、インドネシアで42.1%であり、スリランカはタイに次ぐ都市人口率の低さとなっている（ibid）。

- ・「居住貧困」。所得・消費規模が全般的に拡大しているのに対して、都市的サービスが不備。
- ・スリランカが提唱した国際居住年（International year of Shelter or the Homeless）（1987年）後の1989年から1993年の間に年間10万以上の割合で増加
- ・100万戸住宅計画（1984-1989年）

ブラジャ サ ハ ヤ カ セーワヤ
Praja Sahayaka Sewaya (PSS)

- ・1995年に国際居住年賞（松下賞）を受賞
- ・100万戸住宅計画時代に国家住宅開発公社（National Housing Development Authority ; NHDA）によってコミュニティの組織化の仕事を委託されたスラム住民のリーダー達が、計画終了後にNHDAから独立し、1990年4月に「コミュニティ支援者団」という意味のブラジャ・サハヤカ・セーワヤと名乗る
- ・土地所有権の獲得、文化活動プログラム、貯蓄融資システムといった活動を通じてコミュニティ組織化を促進

ブラジャ・サハヤカ・セーワヤの活動

土地所有権の獲得

- ・4つの住宅組合を組織化
- ・NHDAとコロombo市当局と共同で行われた土地分有に関する研究会で10のコミュニティを支援
- ・この10のコミュニティのリーダーは、自らの土地と住宅に関する問題を共同して検討するために都市人間開発連合（Urban Human Development Federation）を結成

文化活動プログラム

- ・ドラマ、音楽、ダンス、美術に関するトレーニング
- ・集落単位でドラマや美術展示会が開催
- ・参加する子供は、ミーティングを開いたり、議事録を作ったり、ディベートなどをする訓練を受ける

貯蓄信用システム

- ・91年末に女性銀行という貯蓄信用システムを設立
- ・PSSが問題を抱えるスラムに行くか、経験のある女性銀行会員を紹介。スラムの女性たちは5～15人でグループを構成し、週に1回、一人5ルピー⁵ずつ貯金。これを5ヶ月間継続し、PSSによるテストを通過すると、女性銀行の会員として認められる。会員はグループの連帯責任の下で、無担保の融資を受けることができる。（cf.担保を持たないスラムの女性たちが通常は頼る高利貸しの利子が月に20%であるのに対し、この融資の場合は月に4%）
- ・女性銀行は住宅ローンにまで発展（利子は月2%）。住宅ローンが開始されてから4年間で、コロ

⁵ 1998年1月において、1ルピー=2.2円であった。コロomboでの日雇い労働賃金は、未熟練で日額70～100ルピー、熟練工で150～200ルピーと言われている。また普通の人々が購入する米の値段は1キロ20～30ルピー（97年末）である。

ンボ市内だけで600人近い女性が平均1万2000ルピーずつ借りており、約2年で元利完済。

セワナタ SEVANATHA Urban Resource Centre

- ・2001年に国際居住年賞（安田火災賞）を受賞。
- ・「住まいのために手をさしのべる」を意味するセワナタは、都市の低所得コミュニティの生活水準を上げるべく、技術的な支援を提供。1989年に土木建築技術者たちが集まり、コロンボ市内のスラムに事務所を構えて活動。
- ・基本的な活動としては、CBOの連合体であるコミュニティ開発協議会（Community Development Councils）と密接にかかわり、コミュニティで何が必要とされているのかを分析し、それに必要な技術と資金を探す
 - Ex. コロンボ市のスラム内の下水道建設。37家族の住むポーセワナ地区のワークショップで浄化槽の建設などを議論した後、セワナタは設計上のアドバイスをし、建設・維持管理のためのガイドラインを作成して住民に技術トレーニングを与えている。
- ・貧しいコミュニティが国内外の他のコミュニティと経験や知識を交換する場を提供することや、様々な機関からのサービスを獲得するために貧しいコミュニティが必要な情報、知識、技術を獲得できるよう支援。

都市リソースセンターとしてのセワナタの役割・機能

ネットワーク

- ・政府機関や地方自治体、さらには都市開発に関わる外部機関とCBOをリンクする活動。セワナタは地方レベルの5つのCBO/NGOをこのネットワークによって様々な機関とリンクして強化。

情報共有活動

- ・セミナー、ディスカッションフォーラム、交換プログラムやニュースレターによって行われている。セワナタは地域ごとにニュースレターを作成し、様々な低所得家庭のニーズに対応。これらのニュースレターに記載されている情報は、組織拡大のための財源に関して、CBO登録の際の法律・財政面の手続きに関して、そしてごみ廃棄、水と衛生、環境管理、コミュニティ行動計画などの特定分野に関する技術的な情報など。

トレーニング

- ・トレーニングプログラムの計画・編成・実施において特にCBOの参加を重視。
- ・社会環境のための若手専門家チーム Team of Young Professionals for Social Environment (TYPS)を育成し。本チームはURCの活動を通じて貧困コミュニティに経験を伝えている。

参考文献

OPP に関するもの

Anzorena, E.J.

(1997) "Profile of the Orangi Pilot Project : Up to May 1997", *SELAVIP October 1997*, pp.95-104.

(2001) "Orangi Pilot Project Research and Training Institute 2000", *SELAVIP April 2001*, pp.105-107.

(2003) "The Growing Influence of OPP and URC", *SELAVIP April 2003*, pp.85-90.

Hasan, Arif (1990) "Community groups and non-government organizations in the urban field in Pakistan", *Environment and Urbanization*, Vol.2, No.1, pp.74-86.

Hasan, Arif and Massoma Mohib (2002) *Reporting on Slum: A Case Study of Karachi, Pakistan*, Prepared for the Development Planning Unit, University College London for the Global Report on Human Settlements 2003.

Sadiq, Asiya (2000) "Review of the Young Professional and Para-Professional Training Units in Karachi", *SELAVIP October 2000*, pp.69-76

ホームページ

URC Karachi ホームページ

<http://www.urckarachi.org/home.htm>

OPP ホームページ

<http://www.oppinstitutions.com/>

SPARC に関するもの

Anzorena, E.J. (2001) "Community Driven Provision of Sanitation in Indian Cities ; Presentation from SPARC Mahila Milan and NSDF in New York, 6th June 2001", *SELAVIP October 2001*, pp.47-50.

Burra, Sundar

(2001) "Resettlement and Rehabilitation of the Urban Poor : the Mumbai Urban Transport Project", *SELAVIP April 2001*, pp.61-66.

(2002) "Slum Sanitation in Pune : a case study", *SELAVIP April 2002*, pp.49-58.

Chinai, Rupa (2002) "Sustainable Sanitation in Mumbai", *SELAVIP October 2002*, pp.43-44.

Environment and Urbanization (1990) "SPARC : developing new NGO lines", *Environment and Urbanization*, pp.91-104.

大橋正明 (1997) 「NGO 大国インド、その活動、歴史、ネットワーク」, 斉藤千宏編著 『NGO 大国インド : 悠久の国の市民ネットワーク事情』 明石書店, pp.21-53。

斉藤千宏

(1998) 「住民参加と NGO が地域を変える」 斉藤千宏編 『NGO が変える南アジア : 経済成長から社会発展へ』 コモンズ, pp.12-43.

(2003) 「住民参加と NGO の役割 : ムンバイ・スラム開発同盟を事例に」, 佐藤寛 『参加型開発の再検討』 アジア経済研究所, pp.135-164.

ホームページ

SPARC ホームページ

<http://www.sparcindia.org/>

ブラジャ・サハヤカ・セーワヤ、セワナタに関するもの

Anzorena, E.J.

（1993）"Praja Sahayaka Sewaya（Community Facilitator Services）", SELAVIP April 1993, pp.3-4.

（1997）"Women's Housing Loans in Sri Lanka（October 1996）", SELAVIP April 1997, pp.129-130.

（1995）"Praja Sahayaka Sewaya（June 1993-May 1994）", SELAVIP April 1995, pp.89-90.

東研司（1993）「スリランカ・コロombo大都市圏における住宅政策と住宅事情」, 『住宅』日本住宅協会 1993年1月, pp.78-85.

藤原純子（2000）「スリランカの住宅政策」『住宅』日本住宅協会 2000年5月, pp.54-60.

穂坂光彦

（1998）「住民によるスラム改善（スリランカ）」, 斎藤千宏編著『NGOが変える南アジア：経済成長から社会発展へ』コモンズ, pp.43-83.

（2002）「第六章 都市環境と住民運動 三 都市貧困地区の居住環境と住民：コロomboのシャンティ地区改善」, 柳澤悠編『開発と環境』東京大学出版会, pp.149-164.

ホームページ

カラチ URC ホームページ

<http://www.urckarachi.org/other.htm>